

～女川のまちづくり活動をご紹介します～

みなさんのさまざまな取り組みや思いをご紹介します。あなたも参加してみませんか？

弾いて歌って楽しい♪

「おとなのたまり場」は、元中学校教諭の佐藤敏郎さんを中心に音楽を楽しむ会。平成14年に「中高年が集まって取り組める活動を！」と、当時町の生涯学習課に勤務していた佐藤さんに声がかかったことから始まりしました。

平成22年には「大人のためのビギナーズギター教室」という10回講座が開催され、フォークソングブームの時代にギターを覚えられなかった人、また弾きたい人たちが集い、朗らかな佐藤さんの指導のもと、みなさん楽しみながらギターを覚えました。講座終了時には、発表会で曲を披露するまで上達し、その後定期的な集まりに発展していきました。



おとなのたまり場



震災により一時は活動を休止しましたが、当時の仲間が中心となって「またやろう、今度は月1回ずつ活動しよう」と、きぼうのかね商店街にあるセボラさんを会場に毎月夜に集まって活動を続けています。曲の合間で交わされる佐藤さんの面白トークに、和気あいあいと優しい時間が流れます。

今では、震災後に女川へ来た人たちにも仲間の輪が広がり、フォークソングに馴染みのない若い世代も参加するなどして、多世代の交流、さまざまな楽器のコラボレーションが生まれています。

お問合せは、「カフェごはん セボラ(☎090-7936-4439)」まで。

広報女川 12月号

佐藤敏郎さんのトーク&ライブ



懐かしい歌で心をひとつに

12月9日(金)
多目的仮設住宅自治会からのリクエストで元女川第一中学校教諭の佐藤敏郎さんのトーク&ライブ「うたって、しゃべって」が行われました。

佐藤さんは女川第一中学校に勤務されていた震災当時、生徒たちの想いを五・七・五に込める俳句づくりの授業を行い、その取り組みは歌集となって書籍化されています。

また、大川小学校のご遺族の方々に「小さな命の意味を考える会」を立ち上げ、命を守るための講演活動に全国を飛び回っておられます。

ご多忙の中ではありましたが、これまで継続して何度も多目的仮設でトーク&ライブを行っておられ、今回も二つ返事で駆け付けてくれました。

はじめに、佐藤さんのギターの伴奏で懐かしい歌謡曲や童謡を合唱してから、トークのコーナーでは冒頭に「3. 11を無駄にしたくない」という提言が示され、子ども達との数々の「命を守る」取り組みをビデオや写真も交えて紹介してくれました。

それらが実を結び、影響を与え合い、各地に子ども達による防災の取り組みが広がっていったことが、震災で犠牲になった尊い命を無駄にしないことの実践に他ならず、集まった住民の方々の胸にも熱く響いていたようです。

最後に再び全員で合唱して、晴れやかな気持ちでイベントが終わりましたが、子ども達の熱意ある具体的な取り組みに対して、大人はどのようなことができるのかというメッセージが残されたように思います。

災害時に大切な命が守られる地域のあり方について大人も共に考え、その実現に向けた取り組み・地域づくりを平時から行うことが必要なのではないでしょうか。

ボランティアセンターだより1月号